

有馬川を歩く - 神鉄道場から有馬温泉

第 198 回 武庫川エコハイク

2023. 12. 9 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²、丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。武庫川の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。

有馬川 有馬川は六甲山北側紅葉谷を源流とし、有馬町の太閤橋の上流で滝川と六甲川が合流し、有馬川の起点となる。有馬温泉、西宮市山口町を北流し神戸市北区道場町で武庫川に合流する。本川延長約 10 km、支流を合わせた流域面積 81.7km²の武庫川第 2 の支流。滝川と六甲川が合流する有馬川起点から下流は3面張り。河川勾配が大きいので落差工が多い。明治 32 (1899)年7月六甲山鳴動とともに有馬温泉の湯温が上昇湧出量が増加し下流に塩害を及ぼした。有馬鉱泉毒事件と言われる。温泉組合は温泉排水用の土管を名来まで埋め河川水と分流して解決した。しかし温泉からの排水等により有馬川の塩分は他の河川よりも高い。

有馬川と武庫川の合流点 有馬川が注ぐ武庫川の合流点に立つと武庫川と有馬川の高低差がよくわかる。高低差の大きな有馬川の水が強く武庫川の水に打ち勝って武庫川の流れを阻害する。

長尾川合流 道場小学校裏で長尾川が合流する。

有野川合流 国道 176 号線の橋の下流で有野川が合流する。

神鉄道場駅 昭和3(1928)年神戸電鉄三田線開通時に道場川原駅として開業。平成 3(1991)年神鉄道場駅と改称。

国鉄有馬線跡 神鉄道場駅前の城山橋の下の掘割は国鉄有馬線の廃線跡。近くの有野川に橋脚が残る。

山脇延吉翁の碑 神鉄道場駅の線路沿いにある。山脇氏は明治 8(1875)年道場村塩田に生まれる。県議会議員、県議会議長を歴任。その間に国道2号線の完成、武庫川の改修を政府に陳情のほか農業の振興に尽くされた。大正15年神戸有馬電気鉄道(株・現神戸電鉄)を設立、昭和3年神戸、有馬に神有電車が開通し、続いて有馬口から三田まで開通させた。

松原城址(タンポポ城址) 南北朝時代赤松氏が築城したという。道場城ともいわれ、有野川と有馬川の合流点の要害の地にあり、天正年間三木別所氏の一族松原氏が支配したが天正 7(1579)年織田氏に攻められ落城した。松原氏の姫が鼓が好きで、よく城中から「タン、ポン、ポン」と鼓の音が響いていた。城下の人は城を「タンポポ城」と呼ぶようになった。今は開発工事で城跡の形跡も見られない、場所は神鉄道場駅北側。

鹿の子台 神戸三田国際公園都市、神戸リサーチパークの一つ。事業主体は都市再生機構。平成 3(1991)年まちびらき。昔、熊にかまれた子鹿がこの湧水で怪我を治したという伝承があり、今、鹿の子温泉がある。

道場河原(道場川原) もと大谷派本願寺下常楽寺の子釈了善がこの地に道場を建て近くに川原があったことから道場川原と呼ばれるようになった。この地は有馬川有野川が合流する地区で人・物の集積場となっていた。丹波からの丹波街道、播磨方面への播磨道の分岐でもあったことから江戸時代宿場とされて賑わった。

平田 平田は開き田といわれ平らな土地のことという。

山口の概要 7世紀初頭といわれる有馬温泉の発見以来、温泉への入湯経路として山口は発展してきた。山口という地名の由来は、孝徳天皇が有馬へ行かれた時に行宮造営式として行った山口祭に因るとの説、近隣の目立った山への入口とされる説などありますが、一般には有馬温泉へ通じる功地山の入口と考えられています。明治 22(1889)年に有馬郡の名来、下山口、上山口、中野、船坂の5つの村が合併し山口村になり、昭和 26(1951)年に西宮市と合併した。昭和 40(1965)年以降、宅地開発や区画整理が行われ、交通の面からも中国自動車道、西宮北有料道路、阪神高速道路の開通により大きく変わる。山地が多く、農地を多くとれないため、この地の人々は副業に頼らざるを得ませんでした。江戸時代からは紙漉きが盛んになり、明治には、その名を内外に広めた竹籠の製作、そして風土にあった寒天作りが行われてきた。こうした目まぐるしい環境の変化の中でも、この町では伝統文化の保存や、ホテルの保護活動に熱心に取り組んでいます。

名来(ならい) 西宮市山口町の地名。有馬川がこのあたりで 緩やかになることから、平坦の地を指すナラ、ナからでたという。

お天井山(功地山) 名来の有馬川右岸の山、かつて公智神社があったという。

名来神社 正面に火の神様「愛宕社」(祭神 軻遇突智命かぐつちのみこと)、左側に水の神様「水神社」(祭神 象女命みつはめのきこと)。名来の鎮守。

有馬川緑道 下山口から金仙寺口までの有馬川右岸にある緑道。約 1.5 km遊歩道として整備されている。

駅前橋 公智神社付近に国鉄有馬線の有馬口駅があった。小さな橋が駅前橋となっている。

公智神社(こうちじんじや) 西宮市指定の重要文化財。室町時代末期に建立と言われ、桁行 3 間・梁行 2 間の方形入母屋茅葺きのお堂で、柱間は横板羽目、正面中央間に両引き戸、南側面前の間に片引き戸をもつ、面取方柱、舟肘木など時代の特色を示している。市内で西宮神社大練堀に続く2番目に古い建造物。また社叢のシイ・ウラジロガシ群落は西宮市天然記念物。

山口の大ケヤキ 下山口の国道 176 号線が渡る新明治橋のほとりの民家にある大ケヤキは西宮市の天然記念物に指定されている。樹齢推定 300 年、樹高約 20m、幹の胴回り約 4m。

山口の大カヤ 西宮市山口町中野の民家にある大カヤ。樹齢推定 5~600 年、樹高 20m、幹の胴回り約 6mの大木で、樹齢 500 年以上のものは県下でも数少ない。兵庫県指定の天然記念物。

旧国鉄有馬線有馬駅跡 有馬温泉手前の乙倉橋付近の右岸に旧国鉄有馬線の有馬駅があった。現在病院のあるあたりが駅舎で有馬温泉寄りに車庫があった。乙倉橋の欄干には当時の風景が透かし彫りとなって残されている。

さくらの小径 乙倉橋から有馬川左岸は「さくらの小径」と呼ばれ桜の名所である。

有馬川起点 有馬川起点は滝川と六甲川が合流する地点にある。

有馬温泉 道後・白浜と並ぶ日本三古泉の一つ。温泉(とうせん)神社に祀られる大己貴命(おおなむちのみこと)、少彦名命が神代の昔に 3 羽のカラスに導かれて発見されたと伝えられている。日本書紀によれば 7 世紀に天皇が行幸されたという。奈良時代の 8 世紀には僧行基が温泉を開き、温泉寺などを開創され、有馬温泉の基礎を作られた。その後 11 世紀末に大洪水があり、温泉は荒廃した。鎌倉時代の12世紀になると、大和吉野の僧仁西が熊野権現の夢のお告げで有馬に来て温泉を再興した。16世紀には戦火と大火により温泉は壊滅状態になった。しかし太閤秀吉が有馬温泉を訪れて手厚い保護を与えた。泉源の保護、六甲川の付け替え、等を行い洪水から泉源と町を守った。行基、仁西、秀吉は有馬温泉の三大恩人といわれる。